

令和3年度（2021年度）
第76回北海道教育研究所連盟研究発表大会（後志大会）
兼第63回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会



【 羊蹄とじゃがいも畑 】

期 日 令和3年（2021年）8月27日（金）

会 場 配信側：北海道立教育研究所
国立教育政策研究所
受信側：各教育研究所・センター等

主 催 北海道教育研究所連盟

共 催 北海道立教育研究所

主 管 後志教育研修センター

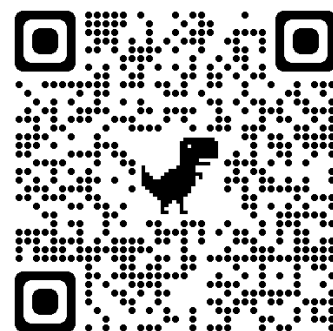
後 援 全国教育研究所連盟 北海道教育委員会

目 次

I	開催要項・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	運営次第・・・・・・・・・・・・・・・・	2
III	第17次共同研究経過報告・・・・・・・・	3
IV	記念講演・・・・・・・・・・・・・・・・	6
V	大会役員等一覧・・・・・・・・・・・・	7

終了後に、右記のQRコードまたはURLに
アクセスしてアンケートに御協力ください。

<https://forms.gle/ucboRTSkmT7U7M237>



I 開催要項

1 目的

北海道教育研究所連盟共同研究について研究協議を行うとともに、各加盟機関での教育研究、教員研修等の取組について交流・協議することにより、北海道教育の一層の充実・発展、並びに所員及び研究員、教職員の資質向上に資する。

2 主催 北海道教育研究所連盟

3 共催 北海道立教育研究所

4 主管 後志教育研修センター

5 後援 全国教育研究所連盟 北海道教育委員会

6 期日 令和3年（2021年）8月27日（金）

7 会場

配信側：北海道立教育研究所（〒069-0834 江別市文京台東町42番地 電話：011-386-4517）
国立教育政策研究所

受信側：各教育研究所・センター等

8 実施方法

Web会議システム（Zoom）により、北海道立教育研究所及び国立教育政策研究所から各参加者に配信する。

9 参加対象

北海道教育研究所連盟加盟機関の所長及び所員、研究員、教育関係者等

10 日程

8月27日（金）

12:40	13:00	14:05	14:15	14:50	15:00	16:20	16:30
接続 テスト	開会式・全体 会	換 気 休 憩	分科会	換 気 休 憩	記念講演（全体会）	閉 会 式	

11 内容

(1) 全体会

第17次共同研究の経過報告

加盟機関による研究発表

(2) 分科会

A 所員・研究員等による学習評価及びICTを活用した授業改善に係る協議

B 所長による令和時代の教育研究所・センター運営に係る協議

(3) 記念講演

演題 「教育研究所・センター所員の資質能力の向上に向けて～小中学校におけるICTを活用した授業改善と評価の実際～」

講師 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部

副部長/総括研究官 白 水 始 氏

II 運営次第

【8月27日（金）】

1 開会式 13:00~13:10

- (1) 主催者挨拶 北海道教育研究所連盟委員長 波 岸 克 泰
 (北 海 道 立 教 育 研 究 所 長)
- (2) 祝 辞 全国教育研究所連盟委員長 浅 田 和 伸 様
 (国 立 教 育 政 策 研 究 所 長)

2 全体会 13:10~14:05

- (1) 共同研究報告 令和3年度共同研究推進委員会委員長 原 田 益 明
(後志教育研修センター研修部長)
- (2) 研究発表
「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業改善
～授業で意図的に「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための目標・指導・評価の一体化～
日高教育研究所・教職員研修センター 晴 山 省 吾
ICT機器の効果的な活用を通して「協働的に学ぶ力」を育む授業づくり
～教職員のICT活用指導力の向上と、子どもの情報活用の実践力の育成～
岩 見 沢 市 立 教 育 研 究 所 黒 坂 俊 介
「未来の教育」の在り方に関する研究
北 海 道 立 教 育 研 究 所 大 井 結 厘 子

3 分科会 14:15~14:50

- A 所員・研究員等による学習評価及びICTを活用した授業改善に係る協議
B 所長による令和時代の教育研究所・センター運営に係る協議

4 記念講演 15:00～16:20

演題 「教育研究所・センター所員の資質能力の向上に向けて～小中学校におけるICTを活用した授業改善と評価の実際～」

講師 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 副部長/総括研究官 白水 始 氏

5 閉会式 16:20~16:30

主管機関挨拶 後志教育研修センター所長 長谷川 誠

Ⅲ 第17次共同研究経過報告

1 研究主題

「学びに向かう力の育成に向けた指導と評価の在り方」 (令和2～4年度)

2 研究のねらい

各教育研究所・研修センターが学校支援のために活用する、学習指導や学習評価に関する実践事例の収集・提供や参考資料の作成により、学びに向かう力の育成に向けた授業力の向上に資する。

3 研究内容及び推進計画

	研究内容 1 学びに向かう力の育成に向けた学習指導	研究内容 2 主体的に学習に取り組む態度を見取る学習評価
一年次 (令和二年度)	(1) 学びに向かう力の育成を目指した指導計画及び評価事例（単元指導計画、一単位時間の指導計画等）の作成 (2) 各教育研究所・研修センターが所管する域内の学校における実践事例の収集 (3) 「指導案バンク」の作成・運営 ○ 作成・収集する授業実践事例 ・学習の見通しがもてる学び方の工夫 ・単元内容のまとまりの中で、自らの考えを記述したり話し合ったりする活動の工夫 ・自らの理解の状況を振り返る活動の工夫	○ 作成・収集する評価事例 ・「粘り強さ」と「学習の調整」を意識した評価規準の設定 ・「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を意識した評価場面の精選 ・「十分満足できる」学習状況の検討 ・「努力を要する」状況の児童生徒への手立て
二年次 (令和三年度)	(1) 学びに向かう力の育成を目指した指導計画及び評価事例（単元指導計画、一単位時間の指導計画等）の作成 (2) 各教育研究所・研修センターが所管する域内の学校における実践事例の収集 (3) 「指導案バンク」の運営・普及 (4) 実践事例を基にした参考資料（冊子等）の作成 ○ 作成・収集する授業実践事例 ・学習の見通しがもてる学び方の工夫	○ 作成・収集する評価事例 ・「十分満足できる」学習状況の検討 ・「努力を要する」状況の児童生徒への手立て ・記述ではない形で表出する児童生徒の姿に着目した評価方法の工夫 ・「指導に生かす評価」の結果を用いた授業改善 ・単元を通した「主体的に学習に取り組む態度」の評定
三年次 (令和四年度)	(1) 各教育研究所・研修センターが所管する域内の学校における実践事例の収集 (2) 「指導案バンク」の運営・普及 (3) 研究成果の普及還元 ・指導資料（冊子等）のWebページ上での公開 ・全教連研究協議会北海道大会での資料配付 ○ 学びに向かう力の育成に向けた指導の在り方の検討 ○ 収集する授業実践事例 ・自らの理解の状況を振り返る活動の工夫	○ 評価の信頼性・妥当性・客観性を高める取組の在り方の検討

- 夏季・冬季所員研修会における所員の力量向上
- Web上で提供する内容の共同研究推進委員会における情報共有
- 研究発表大会における研究発表及び協議

4 共同研究2年次（令和3年度）の取組

- (1) 「学びに向かう力」の育成を目指した指導計画及び評価事例（単元指導計画、一単位時間の指導計画等）（以下「指導計画」）の作成

<目的>

新学習指導要領の趣旨に則った授業改善が求められるとともに、主体的に学習に取り組む態度の評価については、その進め方について教職員が十分理解できていない現状があることから、実践事例を含めた指導計画を作成・発信し、学びに向かう力の育成に向けた教職員の授業力の向上に資する。

<取組の具体>

- ・各共同研究推進委員による指導計画の作成（1人1単元）
- ・第1回共同研究推進委員会（5月14日、Zoom会議）における1年次の成果と課題についての共有及び2年次の推進計画に係る協議
- ・第1回共同研究推進委員会（5月14日、Zoom会議）における指導計画の様式及び作成上の留意点等に係る協議
- ・第2回共同研究推進委員会（10月26日、Zoom会議）及び第3回共同研究推進委員会（1月12日）における作成した指導計画の検討・精査
- ・加盟機関相互の情報共有体制の構築に向けた、指導計画の「指導案バンク」への掲載

<1年次の成果と課題> ◇成果 ◆課題

- ◇ 現場の教職員が必要を感じている「主体的に学習に取り組む態度」の評価に焦点を当てた研究を進めることができた。
- ◇ 様々な教科の『「学びに向かう力」の育成に向けた指導計画』を11本作成できた。
- ◇ 「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を考えることにより、作成者に評価場面を精選する意識が生まれた。
- ◇ 「おおむね満足できる状況」（B）と「十分満足できる状況」（A）の学習状況の事例を数多く収集できた。
- ◆ 「十分満足できる状況」（A）の子どもを見取ることが何につながるのか、学校現場でどう生かすか等、見取る目的を改めて確認する必要がある。
- ◆ 「おおむね満足できる」状況（B）と「十分満足できる状況」（A）の違いについて、発達段階や教科による違いも踏まえつつ、より明確にする必要がある。
- ◆ 記述が苦手な子どもの評価を適切に行うために、行動観察等の効果的な評価方法について、評価の負担を考慮しながら、検討する必要がある。
- ◆ 学習評価の方針を事前に子どもと共有する場面を必要に応じて設ける等、子どもがより学習を調整できる方策について検討する必要がある。

＜令和3年5月14日開催 第1回共同研究推進委員会 協議結果＞

- ・昨年度の指導計画に掲載した評価事例が具体的に有益だったことから、今年度も全員が『主体的に学習に取り組む態度』の評価の実際」を記述することとする。
- ・主体的に学習に取り組む態度は、単元を通して、あるいは複数の単元を通して、比較的長期的に児童生徒の変容を見取ることが求められていることから、評価の方針を児童生徒と共有する場合は、単元または、単元と1単位時間で評価の方針の共有を行う。
- ・児童生徒に見通しをもたせることは、主体的に学習に取り組む態度の育成に向けて欠かせない視点であることから、全員が「学習の見通しがもてる学び方の工夫」を記述することとする。ただし、4～12行程度に簡潔に記すこととする。

(2) 各域内の学校の実践事例の収集・「指導案バンク」の運営・普及

＜目的＞

実践事例を収集し加盟機関と情報を共有することを目的に、作成した指導計画等を全道の加盟機関で共有する「指導案バンク」を道研連ホームページ上に設置する。

＜取組の具体＞

- ・道研連ホームページ上に設置した2種類の「指導案バンク」の運営・普及に努める。

①学びに向かう力の育成に向けた指導計画	②研究会等の実践
○ 共同研究推進委員が作成した、学びに向かう力の育成に向けた指導計画を全道で共有	○ 各教育研究所・センターの紀要等に掲載している指導案のデータを、指導案バンクに掲載し、全道で好事例を共有
※②については、過去の指導計画にとどまらず、令和3年度以降に行われる研究会の指導計画についても収集する。 ※新学習指導要領の内容を扱っている指導計画については、②として提出されたものでも、①に当てはまると事務局が判断する場合は、①の指導案バンクに含める。	

※研究会等の実践の収集については、研究発表大会以降に、各加盟機関に協力を依頼

(3) 実践事例を基にした参考資料（冊子等）の作成

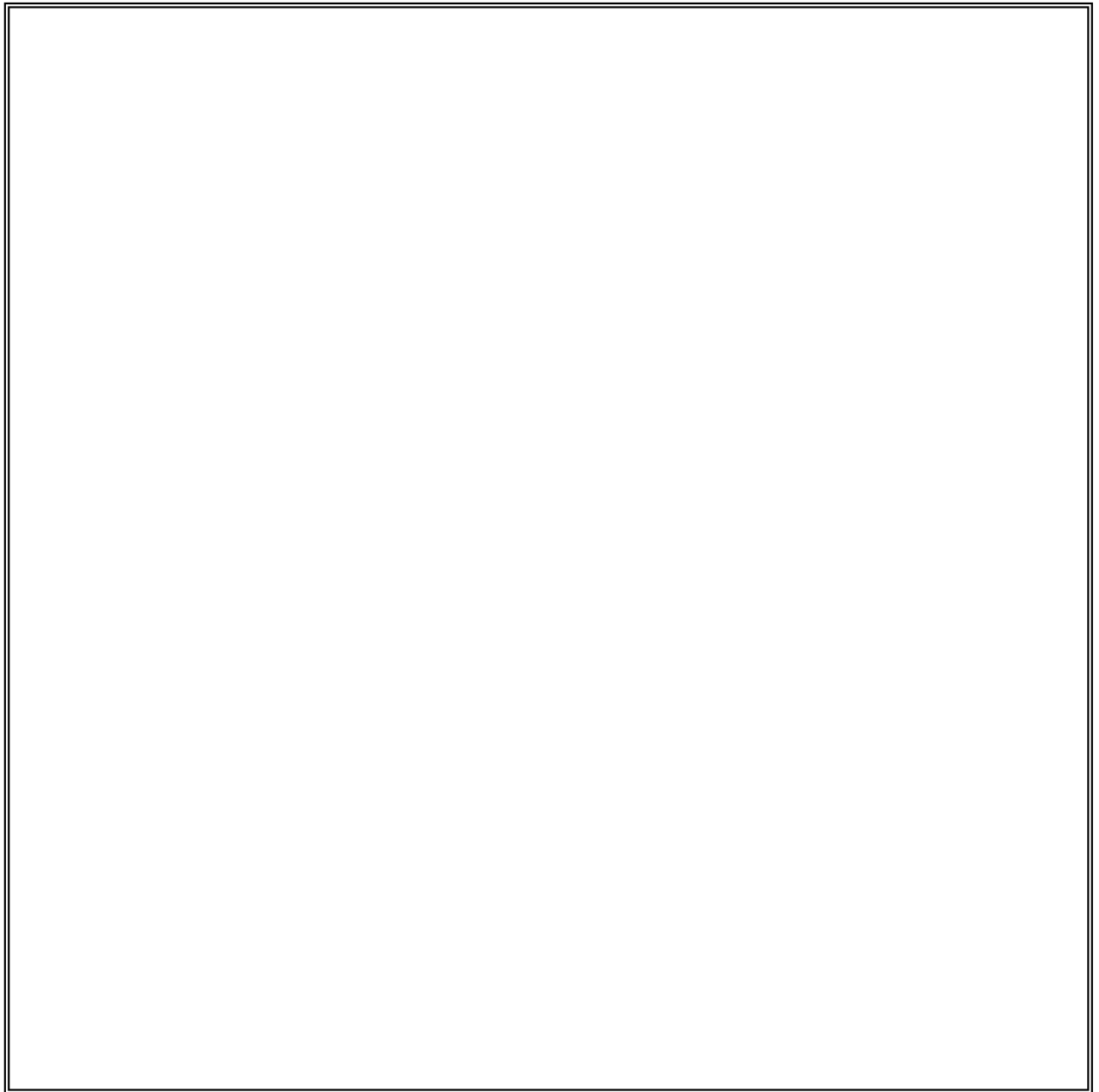
- ・収集した事例をもとに、参考資料（冊子等）を作成し、Webページ上での公開及び、令和4年度全教連研究協議会北海道大会での資料配付を目指す。

IV 記念講演

「教育研究所・センター所員の資質能力の向上に向けて～小中学校におけるICTを活用した授業改善と評価の実際～」

講師 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部

総括研究官 白 水 始 氏



V 大会役員等一覧

大会長	波 岸 克 泰	北海道教育研究所連盟委員長（北海道立教育研究所長）
副大会長	山 田 洋	北海道教育研究所連盟副委員長（十勝教育研究所長）
	三戸部 文 彦	北海道教育研究所連盟副委員長（札幌市教育センター所長）

【北海道教育研究所連盟事務局】

事務局 長	山 口 利 之	（北海道立教育研究所副所長）
事務局次長	桑 原 知 己	（北海道立教育研究所総務部長）
	城 戸 和 彦	（北海道立教育研究所研究部長）
事務主幹	米 田 恵 美	（北海道立教育研究所総務部事業課長）
研究主幹	猪 子 政 文	（北海道立教育研究所研究部研究主幹）
事務局員	岡 田 和 英	（北海道立教育研究所総務部事業課主査）
	大 井 結 厘子	（北海道立教育研究所研究部主査）
	浅 部 航 太	（北海道立教育研究所研究部研究研修主事）

【運営委員会（後志教育研修センター）】

委員長	長谷川 誠	（所 長）	馬 場 真理子	（所 員）
副委員長	渡 邊 均	（副 所 長）	小 西 淳 樹	（所 員）
委 員	中 村 寿 樹	（事務部長）	富 樫 広 介	（所 員）
	原 田 益 明	（研修部長）	田 口 晴 也	（所 員）
	清 水 栄 治	（調査研究主事）	森 拓 実	（ICT 所員）
	亀 井 孝 志	（研究委員長）	武 田 麻衣子	（所 員）
	太 田 互	（研修講座主事）	高 田 響	（所 員）
	笠 原 雄 哉	（所 員）		
	鶴 見 卓 哉	（所 員）		

【令和3年度(2021年度) 共同研究推進委員会】

委員長	原 田 益 明	（後志教育研修センター研修部長）
副委員長	浅 部 航 太	（北海道立教育研究所研究部研究研修主事）
委 員	晴 山 省 吾	（日高教育研究所・教職員研修センター所員）
	飛 島 耕 輔	（釧路教育研究所研究所員）
	千 葉 佑 太	（網走地方教育研修センター研究員）
	三 上 貴 也	（上川教育研修センター研究員）
	中 村 泰 広	（留萌管内教育研究所研究員）
	上 野 智恵美	（札幌市教育センター研修担当係長（指導主事））
	富 樫 いずみ	（岩見沢市立教育研究所員）
	本 田 靖	（函館市南北北海道教育センター研究員）
	芳 賀 均	（北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター員）